

証券取引制度の研究をめぐる研究環境

廖美華 / 亞洲大學財務金融學系 助理教授

台湾の IPO (Initial Public Offering) 株(新規公開株) は以前から超過収益率が、非常に高いと知られていた。その裏の原因は値幅制限の影響と思われた。私は2006年に台湾から留学する前に、すでにその研究に興味を持っていた。それを明らかにするために私は、値幅制限に関する制度から市場への影響まで調べた。そのさい、台湾と日本の株式取引に関する情報を読み取るために私は毎日、経済経営研究所を利用していた。わからないことがあると経済経営研究所の方に聞き、それをきっかけとして江竜美子助手と知り合い、ついで経済経営研究所でのアルバイトに誘われた。

台湾の値幅制限の背景と現象について分析するなかで、同じく値幅制限の存在するアジア諸国の市場を更に比較検討した。特にアジアで最も早く株式取引所が設立された日本は、アジアのほかの国の証券取引制度に大きな影響を与えたと思われた。それで、日本の値幅制限にかかわって、株式取引所が設立された背景と最初の市場への影響を調べた。日本の株式取引所が設立された背景を調査したところ、経済経営研究所にはその時代に関する新聞や雑誌などの資料が多く保存されていることが分かった。

そして、資料を読めば読むほど、市場状況だけでなく、第二次世界大戦の戦局や政治家間の力関係を無視できないと分かった。また、証券取引法が制定された当初は株価変化が激しかったことから、当時は投資者保護の理念が重視されていたことに気付いた。すると、自分のそれまでの研究内容にどこか足りないところがあるのではないかと心配し、指導教員である堀本三郎教授と経済経営研究所の所長である阿部安成教授に何回も相談して、当時の国際関係、経済、政治、産業、財団財閥など、より広範囲の事象の影響を論文に取り入れた。更に、異なる期間ごとの値幅制限を比較研究し、数字の裏にある品質変化を明らかにした。私はようやく、2009年に博士の学位を授与された。私の学位授与をめぐる経済経営研究所の研究環境に、深く感謝する。

経済経営研究所は、おもに20世紀初頭の日本と東アジアの経済、産業、金融に関する資料を豊富に

所蔵するという特徴を持ち、また文化、芸術等々の広範囲の資料も保管している。研究者にとって経済経営研究所は、資料利用、設備提供、研究相談などいろいろな形で研究活動に役立つ。その提供対象は、滋賀大学の教員や学生・院生たちだけではなく、デジタルアーカイブ検索システムが導入されてからは、学外の研究をも支えている。インターネット上でデジタルアーカイブ検索システムから経済経営研究所の資料を利用できるおかげで、私は台湾にしながら、研究を活性化することができた。

経済経営研究所がいよいよ100周年を迎える。経済経営研究所がこれからも教育や研究にかかわって、より一層の活躍をしていくことを期待する。

経済経営研究所の資料を利用した著作：

- ◎ 廖美華(2013)「台湾株式市場における投資家行動」『彦根論叢』第395号, 106-113頁。
- ◎ 廖美華(2009)「台湾における値幅制限の歴史と現状」『びわ湖経済論集』第8巻第1号, 37-43頁。
- ◎ 廖美華(2009)「日本と台湾の株式市場における値幅制限の分析」博士論文。
- ◎ 廖美華(2009)「値幅制限撤廃の効果: 台湾新規公開株市場からの示唆」『彦根論叢』第378号, 41-54頁。
- ◎ 廖美華(2009)「日本の値幅制限の歴史と現状」『びわ湖経済論集』第7巻第2号, 31-53頁。
- ◎ 廖美華(2008)「台湾 IPO 株のクロス・セクション分析」『証券経済学会年報』第43号, 140-144頁。
- ◎ 廖美華(2008)「値幅制限と価格発見機能」『びわ湖経済論集』第7巻第1号, 61-70頁。
- ◎ 廖美華(2008)「台湾 IPO 株について市場効率性の実証分析」『びわ湖経済論集』第6巻第1号, 75-88頁。